

居場所を基地に、 本人がやりたいことをかなえ、ともに変身！

～ 出会い、つながり、社会に参加し、本人発信へ展開 ～

【広島市】 広島市西部認知症疾患医療センター
岡田 眞理
(元認知症地域支援推進員)
広島市江波地域包括支援センター
認知症地域支援推進員 (中区担当)
梅田沙貴恵

広島市について

○総人口	1,199,180人
○65歳以上人口	302,154人
○高齢化率	25.3%
○日常生活圏域数	39圏域
○地域包括支援センター数	41か所
○認知症地域支援推進員数	8人



* 市からの委託で地域包括支援センターに配置

(2020年3月31日現在)

取り組みのきっかけ

若年性認知症の方と家族から相談を受ける中で、当事者が診断を受けて仕事に行けなくなってから公的サービス（障害福祉・介護保険など）を受けるようになるまでの間に行き場がないことを痛感した。

<当事者の声>

病気が受け入れられない…

自宅で一人でボーとしている

人に知られたたくない…

家族にも話しづらい…

どのように過ごしていいかわからない…

まだできる事はたくさんあるのに

仕事は辞めさせられた！

身体は元気なのに、気持ちが落ち込む

若年性認知症の人たちをつなぐ場を作りたい ！

取り組みの準備



社会福祉法人広医会 悠悠タウン江波 施設長に相談
(* 推進員が所属している法人施設)

➡ 「法人における地域貢献」 としてやろう！

* 企画や準備は、推進員と当事者・職員・地域の人と相談を重ねながら
* 発案から、2か月くらいかけて。

- ・ 開催場所 : 市営住宅集会所
- ・ 開催日時 : 毎週月曜日 10～14時(9~15時)
- ・ 活動内容 : 木工・畑仕事・スポーツ・音楽活動など
- ・ 支援者 : 認知症地域支援推進員+法人職員1~2名+地域ボランティア
- ・ 位置づけ : 施設の地域でのボランティアグループ (昼食を無料で提供)

居場所のねらい

- ① 当事者同士のつながりを作る
- ② 役に立つ、仕事で儲ける
- ③ 好きな事をして楽しむ

ニックネームは地元のおさん狐の民話から

きつね倶楽部



落ち込んでおらずに、楽しい自分に変身しよう！



マスコットはボランティアで参加している認知サポーターが作成（商標登録済み）

きつね倶楽部 活動実績

< 2017年6月～2020年10月 >

- ・参加者実人数 男性15人 女性4人（スタートは2人から）
- ・年齢 40～69歳
- ・病名 アルツハイマー型認知症 前頭葉側頭葉型認知症
- ・介護度 未申請～要介護5
- ・つながったルート 認知症地域支援推進員・認知症疾患医療センター
専門医クリニック・ケアマネ・地域包括支援センターなど

ケース紹介 Aさん

- 40歳代 男性 アルバイト勤務（診断後辞職）
- 2年前に友人が本人と一緒に遊びに行き、自転車の置場所がわからないことに気づき本人の母親に相談。総合病院受診し、うつ病の診断を受けるが、父親が納得がいかず精神科受診し若年性アルツハイマー型認知症の診断を受ける。
- 精神科のデイケアを紹介され通うが、ルールが厳しくて本人が行かなくなる。父親が「本人のしたい事・できる事を一緒に考えてくれるところはないか？」と認知症カフェを訪ね廻る。
- 趣味 バンド活動（ドラム演奏）、サッカー、コーヒーを淹れる



きつね倶楽部でのAさん



ペンキ塗り



畑仕事



コースター作り



フットサル



コーヒー豆を挽く



ボンゴをたたく



現在の支援体制



きつね倶楽部

居宅介護

ショートステイ



友人は「できる事は付き合うよ」と時々遊びに来てくれる

就労継続支援B型事業所

専門医



民生委員・近隣住民は優しい見守り

移動支援

(広島市の事業)

認知症対応型通所介護

ソフトボール

町内会 (認知症サポーターがいる)

販売した作品



コースター



組み立てベンチ



踏み台



カフェの看板

やりたいことを一緒に

- 本当は、油絵が描きたい。
家では汚れるから…家族にこれ以上迷惑をかけられない。
後始末が大変だしね。
- 高級ホテルの板前だったよ。
- 認知症になったら、包丁は危ないからってクビになった…
マイ包丁があるよ！（包丁）研いたげようか？
- 空いた花壇でバラを育てたい！



やりたいことを一緒に



包丁とぎ

さすがプロ！ よく切れるようになりました。

油絵

至福の時間・集中してます！

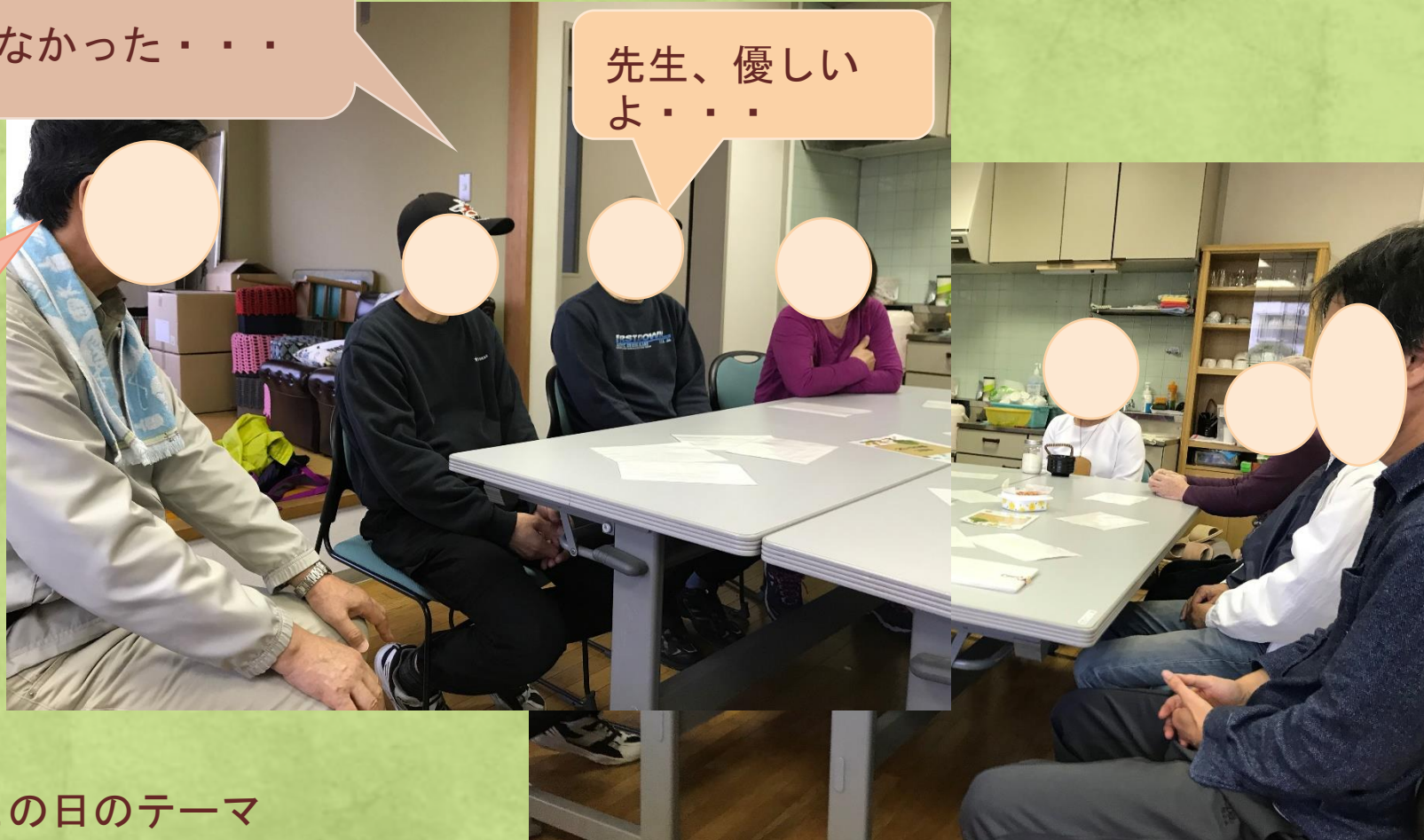


バラの手入れ

薬が難しいですが、さすがです！

座談会

「頭を治して」と言ったけど
何も答えなかった・・・



先生、優しいよ・・・

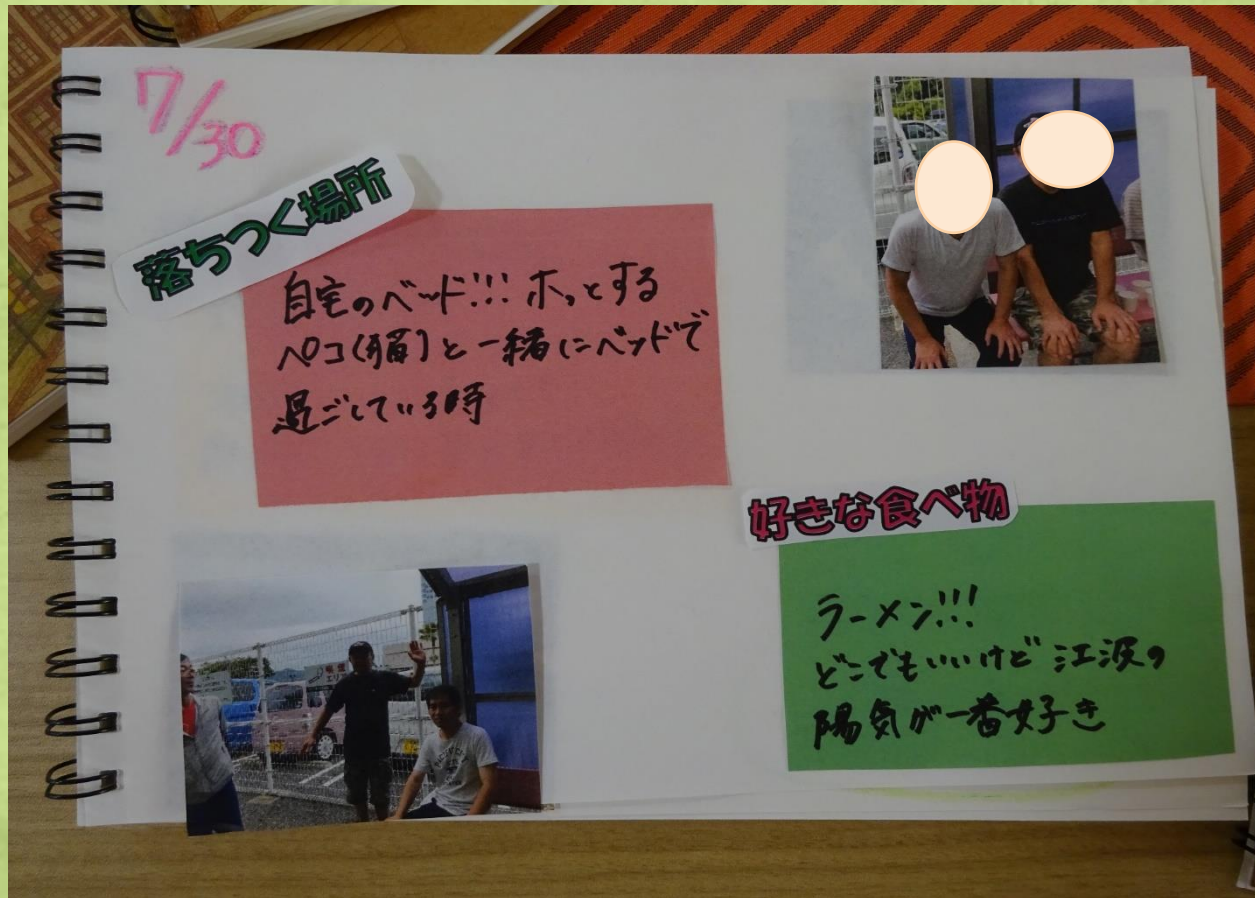
主治医が優しいから、大人しくしとけばいいんです。

辞めてよし！
わからん・・・
(笑顔)

この日のテーマ
「医者に言いたい事・聞きた事！」



本人の言葉を残す



家族のために

本人のこれからの生活のために



きつねカフェ



参加者家族ミーティング
3か月に1度土曜日
10:00～12:00

家族の声

- (本人も傷ついているが) 家族(私)も傷ついている。
周囲には、それを理解してもらえない。
腫れ物に触るみたいに接されて悲しい、傷つく、寂しい。
- 診断された時は、「若いのになんで！」って思った。
寝込んで食べられなくなった。
そのあとに、怒りがでた!
- 診断された時は、しばらく現実でないと思った。(受け止めたくない)
悲しむより、次は何をしないといけないのかを考えるのが、先だった。
当分、子供にも親戚にも職場にも言わなかった。



当事者及び家族にとっての意義

- 精神的に安定した。（明るくなった・よくしゃべるようになった・行くのが楽しみ）
→ したい事ができる！自分だけじゃない！
- 様々な支援に繋がるきっかけとなった。
→ 障害福祉,介護保険サービス・年金・専門医
認知症カフェなど
- 一緒に考えてくれる仲間が増えた。
→ 家族同士・施設職員・ボランティア・地域住民など



専門職や住民にとっての意義

- 支援をする側、支援される側としての出会いでなく、さまざまな活動を通して仲間意識が生まれる。→ サービス導入がスムーズ
- ひとりひとりの応援団を作ること、アイデアが生まれ仲間が増える。
→ ケースの困りごとを自分毎として考える機会となり、少しずつのボランティアがつながり広がる。
- 地域住民にとって若年性認知症の理解・啓発が自然にできる場となる。
- 地域包括支援センターを介して、簡単な仕事を頼める場となる。
→ 草抜き・タンスの移動・水やりなど

課題

当初プラットフォームと
考えていたが、基地になり
卒業は難しい

受け皿不足

新しい希望者が受け
入れられない。

待機者が増える

きつね倶楽部

専門分野

多角的な支援

インフォーマルサービス

フォーマルサービス

地域との交流

多世代

課題解決に向けて

研修会

地域住民への啓発

医療デイケア

認知症疾患センターと連携

他区での
居場所

推進員同士の連携

若年性認知症
事例検討会

きつね倶楽部

社会資源の開発

ひとりひとりを大切に

応援団作り

自分事として考える

仕事を越えた
アイデア

制度を超えて

専門職の
つながり

きつね倶楽部からのメッセージ



元推進員



やり続ける



ケア専門士



保育園児

安心して過ごせる基地



絵画ボランティア



地域の高齢者



仲間が増える



音楽ボランティア

ご清聴ありがとうございました！

